

# 神庭の空

校長通信〈No. 3〉

平成24年9月20日

9月3日の朝から、児童生徒の歓声が中原養護学校に戻ってきました。

2学期始業式の挨拶からではなく、1学期終業式の挨拶を紹介します。一つは「通学や学校生活をサポートして下さった方に感謝しよう」と、次に「1学期を振り返り、自分の頑張りを自分で褒めて自信につなげてほしい」と話しました。三つ目は「計画を立て42日間の夏休みを、体調を崩さずにしっかりエンジョイしてほしい」と話しました。あの頃はいじめに関する報道も多く心が痛みました。私は生きてくても生きられなかった生徒たちをたくさん知っています。その人たちのためにも「命を大切にしてほしい」と話しました。苦しい時は、必ず近くの先生に「SOS」を出してほしいと伝えました。今年度当初、「**一人はみんなのために、みんなは一人のために**」を私が好きなそして大切な言葉として紹介しました。高等部の生徒の中にはその言葉を覚えている生徒もいて嬉しく思いました。夏休み中もこの言葉を忘れず、過ごしてほしいと話しました。

2学期始業式は中学部1年の桑村一步さんとのお別れから始まりました。残念な想いで一杯ですが、与えられた限りある命を精一杯生きることが、常に子どもたちから教えられています。一日一日を大切に、子どもたちと学校生活を創っていくことを改めて誓いました。

今夏も、関東甲越地区の肢体不自由特別支援学校のPTA研究大会や全国肢体不自由特別支援学校のPTA研究大会に参加しました。神奈川県からも金沢養護学校や横浜市立東俣野・中村特別支援学校PTAの発表がありました。子どもたちへの想いや改善に向けた前向きな姿勢が随所に感じられ、頭が下がりました。学校との協力体制が、それぞれのPTA活動の原動力になっていました。今回は、全肢P長野大会の会員研修の講演を紹介します。全文は大会報告集でご覧いただく事にして、ここでは要旨を簡単に紹介します。

<演題>「卒業後の生活を豊かにするために 今、学校や保護者が考えること」

<講師> 福岡 寿(ふくおか ひさし)

日本相談支援専門員協会副代表 長野県相談支援体制整備アドバイザー

## 社会資源の10本の指

- |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
| 家 | 親 | 近 | 友 | ボ | 地 | 法 | 行 | 企 | 本 |
| 族 | 戚 | 隣 | 人 | ラ | 域 | 人 | 政 | 業 | 人 |
|   |   |   |   | ・ | ン | の |   |   |   |
|   |   |   |   | 同 | テ | 団 |   |   |   |
|   |   |   |   | 僚 | ア | 体 |   |   |   |

福岡さんは、**24時間365日の地域での安心を目指**し、長野県で福祉行政に携わってこられた方です。「生活を豊かにする」ことの意味や方法についてお話されました。

皆さんは「**社会資源の10本の指**」のいくつを使っていますか。⑥から

⑨の活用は、学校の課題でもあります。

**支援の始まり**は、本人や関係者から聞き取りを丁寧に行い「**アセスメント**」を**明らかに**することです。進路指導・移行支援を考える時は、特に**本人の強み**(趣味や特技、望んでいる生活)を聞き取る事が大切なようです。

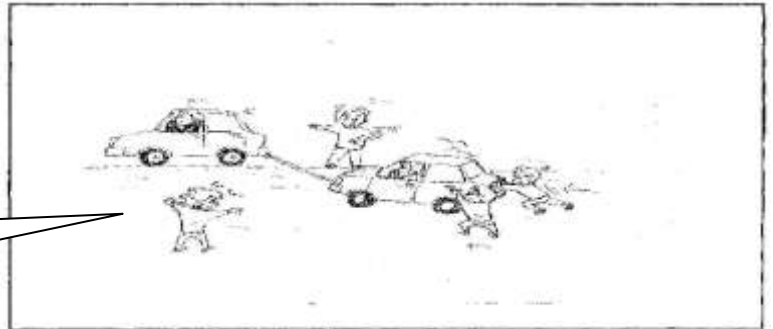
**アセスメント**

- \* どこで困っているのか
- \* どう支援してほしいのか
- \* どんな生活がしたいのか

↓

**明らかにする!!!**

支援の体制を、車が動かなくなった時に例えて簡潔に紹介しています。下の図のように様々な人が集まり、色々な支援や協力があつて車は元に戻り、前進します。



車を押す人、指示する人  
ハンドルを握る人など色々

支援体制は、サービス主導の支援からニーズ主導の支援に変化してきています。支援の型も下図の「**家族が要の扇型の支援**」から「**輪型の支援チーム**」に変容しています。

「**家族が要の扇型の支援**」の場合は、支援の要が家族のため、個人で学校・行政・作業所と交渉する事になります。そのため、保護者の姿勢によって支援に差が生まれます。

「**輪型の支援チーム**」の場合は、ニーズを確認し、チームで互いの知恵を出し合い、小さな資源開発を繰り返し一人一人が豊かに生活できる社会を目指します。学校も、学校の限界と特性を明らかにしながら、積極的に輪の一員として学齢児の相談支援に取り組みます。

相談支援を担当する人(教員も)は、「木を見ながら、森をこしらえる人」「森全体がわかりながら、木をこしらえる人」であってほしいと述べています。ニーズアセスメント力と部分と全体を統合できる専門性が求められる業務だけにチーム力が重要です。やはり「**一人はみんなのために、みんなは一人のために**」が大切です。

